

平成29年度家庭教育応援プロジェクト 第1回地域家庭教育推進県中ブロック会議

□ 日 時

平成29年6月15日(木)

13:30～16:30

□ 会 場

郡山市労働福祉会館

福島県教育委員会では、本県の家庭教育の現状と課題を踏まえ、家庭教育の推進や地域の教育力の向上をめざし、平成26年度より「地域でつながる家庭教育応援事業」として、PTAと連携し、家庭教育について親自身が学ぶ機会を充実するための支援や、地域で主体的に家庭教育の支援が行えるような学習プログラムの作成、企業と連携した家庭教育等を推進しております。



これらの事業の一つとして県内7地区において、学校・家庭・地域が連携し、家庭教育の推進・子どもたちの生活習慣の向上や課題解決に向けて実践的な活動がなされるよう、PTA・学校・地域の子どもの関わっている諸団体・家庭教育支援ボランティア実践者・企業の代表者等による「地域家庭教育推進ブロック会議」を設置し、協議を行っています。

今年度のスタートとなる第1回の会議では、2名の推進委員から情報提供をして頂くとともに、本年度取り組む課題を確認し、今後の推進に向けて活発な意見交換がなされました。

【出席者】

- 県中ブロック会議アドバイザー（学識経験者）
 - 郡山市家庭教育推進アドバイザー
 - 須賀川市社会福祉協議会岩瀬支所長
 - 郡山警察署生活安全課専門少年警察補導員
 - 県中児童相談所主任児童福祉司
 - 田村市役所保健福祉部社会福祉課課長兼子育て支援係長
 - 郡山市主任児童委員
 - 家庭教育支援県中協議会会長
 - NPO法人かがみいしスポーツクラブ理事長
 - 郡山青年会議所理事長
 - 郡山市PTA連合会出納長（郡山市立薫小学校PTA会長）
 - 岩瀬地区PTA連合会会長（須賀川市立第一中学校PTA会長）
 - 石川郡連合PTA会長（古殿町立古殿中学校PTA会長）
 - 田村地方PTA連合会会長（田村市立滝根小学校PTA会長）
- （欠席：須賀川市家庭教育インストラクター）

時 間	内 容
13:30～	開 会 行 事 ○ 主催者挨拶 ○ 事務局員自己紹介
13:40～	事 業 説 明 ○ 「地域でつながる家庭教育応援事業」の概要と「地域家庭教育推進県中ブロック会議」について
13:50～	経緯と現状説明 ○ 昨年度までのブロック会議の経緯と本地区の家庭教育推進上の現状と課題について
14:00～	情 報 提 供 I ○ 「児童相談所の関わる子どもたち」 県中児童相談所主任児童福祉司 奥山直子 氏
14:20～	情 報 提 供 II ○ 「子どもたちを取り巻くスポーツ環境」 NPO法人かがみいスポーツクラブ理事長 佐藤靖弘氏
	休 憩
14:55～	協 議 1 ○ 自己紹介及び各推進委員の活動について
15:40～	協 議 2 ○本地区の家庭教育の現状、推進上の課題について
16:00～	協 議 3 ○ 今年度の取組について
16:25～	閉 会 行 事 御礼のことば 諸連絡

情報提供 I

「児童相談所のかかわる子どもたち」

県中児童相談所 主任児童福祉司 奥山 直子 氏

- 児童相談所とは…… 18歳未満の児童のあらゆる問題について相談に応じ、最も適した指導を行う専門機関
H19.4 県中児童相談所開設
- 児童相談の流れ
相談受付 → 調査・**診断** → (一時保護(行動診断)) → 援助方針会議 →
・社会診断 (保護者、学校等環境に関する診断)
・心理診断 (心理判定員による診断)
・医学診断 (小児科医、精神科医等による診断)
→援助 ・措置に基づく援助 (在宅指導、施設入所等)
・措置に基づかない援助
- 一時保護について
H28年度県中児相 所内保護84件
委託保護 (里親・児童養護施設等) 67件
- 入所児童数について (H29.4.1現在)
児童養護施設 109件
障害児入所施設 50件
里親 33件
児童自立支援施設 10件
乳児院 6件
小規模住居型 (ファミリーホーム: 6名まで入所可能) 3件

- 児童相談受付件数
7, 0 1 4 件（県中 2, 4 1 0 件：県内最多）
増加傾向にある
- 児童虐待受付件数
9 7 1 件（県中 3 5 6 件：県内最多）、うち一時保護 8 4 件(8.7%)
身体虐待(20.0%) 性的虐待(1.5%) ネグレクト(16.1%) 心的虐待(62.4%)
※DV目撃を虐待として取り扱うようになったため心的虐待が最も多くなっている
※虐待相談を受け緊急性が高い場合には、入院、一時保護等の措置をとる
施設入所に同意しない保護者 → 児童福祉法 2 8 条による施設入所申立手続
- 里親の募集について
現在施設入所 8 割、里親が 2 割の実態である
今後里親を 1 / 3 まで増やす国の方針（養育里親を増やす）
地域や P T A でも里親制度の理解や啓発をお願いしたい

情報提供 II

「子どもたちを取り巻くスポーツ環境」

N P O 法人かがみいしスポーツクラブ理事長 佐藤 靖弘 氏

- 総合型スポーツクラブとは？
県内 8 地区に 5 8 のクラブ（1 4 クラブが震災等の影響で休止中）
他種目・他世代 興味やレベルに応じ、生涯を通じてスポーツに親しめる環境
行政主導ではなく、地域（住民）主体の運営
継続的な運絵のため基金（t o t o 等）の活用、N P O 化など
- スポーツ少年団との関わり
スポ少もクラブの中にある
スポ少は専門性が高く、敷居が高く感じられる傾向がある 保護者の負担も大きい
勝利至上主義がスポ少団員の減少の一因になっている
クラブで種目を体験し、スポ少に移行する子どももいる
- かがみいしスポーツクラブの子ども対象の事業
定期活動（サークル活動、スクール活動）
イベント活動（スタンプラリー、他世代交流）
運動指導（トップアスリート教室、スキー教室、陸上競技記録会）
町連携事業（幼稚園・保育園・児童館運動指導） → スポーツクラブに繋げる
スポーツ教室（テニス、バドミントン、バレーボール、水泳…）
学校連携事業（ふくしまっ子体力向上プロジェクト事業）
部活動・特設クラブ補助
学校応援団（学校支援活動事業）とも連携
その他（英会話教室、親子バドミントン…）
- 子どもたちを取り巻くスポーツ環境
放課後の活動（子どもたちだけでの外遊びを知らない）
指導者と子どもたちとの関係 コーチングを学ぶ意義
子どもの体力・肥満の問題 → 同時に福島県の大人の問題（ワースト 2）
与える環境から自主的に活動できる環境作り（大人の支援・協力）
子どもを運動に引き出すためには
※ 保護者が興味を持つ、一緒に楽しむこと

- ※ はじめは遊びから！ゲームよりスポーツは楽しい！
- 子ども同士で遊べない状況の解消
- ※異年齢集団で、年上の子どもが年下の子どもを教える
- ※大人が与えるだけではなく、子どもが考えて行動する事が大切
- 加熱する指導者向けの研修会の実施
- 地域の人々、関係者、保護者が一緒になり「誰のための活動か？」を考え活動している

協議 1 自己紹介及び各推進委員の活動について

各推進委員の発表から

- 幼児教育が人の一生を左右する。
- 中学校区で寺子屋を実施している。50人近い子どもたちが集まり大学生や高校生から学んでいる。大人の学び（ブログの寺子屋）も開催している。
- 子どもたちのSNSの現状について危惧している。何とかしなければならないと言いつけている。
- 街頭で子どもたちの姿が見えない。少年犯罪は減少しているが、JKビジネスやスマホによる被害を心配している。
- 地元の高校では地域と連携し職場体験（デュアル実習）を実施し効果を上げている。
- スポ少に参加したくても参加できない子どもにどのように関わっていけばよいか？
- スポ少指導者をしていたが、勝利至上主義ではなくスポーツを通じた教育の場として指導していた。
- 児童クラブでは、高学年の子どもが低学年の子どもの面倒を見ている。異年齢の活動は効果的である。また、放課後に遊ばせる事で体力の向上につながっている。
- 家庭教育支援者の高齢化で活動を休止する事も考えた。挨拶ができる子どもにするために積極的に挨拶をしている。
- スポーツを通し地域のコミュニティーの活性化を図りたい。周りにいる大人たちが楽しんでいれば子どもの活動も継続する。「地元のもの食べて応援しようプロジェクト（ベジタブルキャンパス）」を計画している。
- まちづくり活動・青少年育成事業（文学・キャンプ・職場体験）に取り組んでいる。
- 子どもの様々な問題は大人の問題でもある。連携の希薄化、子育ての孤立化を感じる。親の学びの場は親同士、地域の交流から生まれると考えており、学校行事の度に学年ごとに教室を開放し交流の場を提供している。
- 地域の特性で地域の大人と子どもの顔見知りが多く声をかけやすい。声かけ・挨拶を小さいうちから身につけさせることが大切である。そういった子どもは中学生になっても話しかけてくる。
- よりよい環境づくり（安心安全）を目指す。子どもたちの鉄分不足が気になる。給食センターに相談しており、どのように補っていくかが課題である。
- 統合2年目であり保護者の一体感を高めていきたい。

協議 2 本地区の家庭教育の現状及び推進上の課題

各推進委員より

- 家庭教育では、地域の大人の声かけが大切なのではないかな。

- 地元の子どもたちは高校生になってからスマホを持つ子が多い。
- 家庭によってはコミュニケーションをとる時間をつくれな家庭もある。行事にも参加できない家庭もある。どの家庭でも実践できるような取組について紹介して頂きたい。
- 教育方法がわからないという親もいる。どのように支援、アドバイスしていくかが課題である。
- SNS、スマホ、ゲームなど話題になるが、小学生のゲームが一番やっかいである。時間制限をするなど親のしつけが必要であるが、教育方法がわからないという親もいる。どのように支援、アドバイスしていくかが課題である。
- 家庭内のコミュニケーションは単純な会話だけでもよい。同じ空間に一緒にいる事、顔を合わせているだけでよい。けんかをするのもある種のコミュニケーションである。
- SNSに関して大人が無知である事が恐い。
- 青少年事業では、親がどう関わっていくか（親が離れる事も）が大切である。事業の前と後での親子の会話を欠かさない事も重要である。

【アドバイザーより】

- 技術革新があり、便利な世の中になったが落とし穴もある。子どもたちとの会話、親子と一緒に何かをしてみるといった日常の行動を大切にしなければならない。
- 三和小学校親子の学び応援講座“BALL GAME”体験会で単純なボールゲームであるが、大人の顔がとても楽しそうであった。継続していきたい。
- 「家庭が真ん中」「子どもが中心」であることをベースに「学校・地域・企業」が家庭を支えていく活動を進めていきたい。
- 県中地区の課題を「親子のコミュニケーション」「親子のふれあい」とし、その解決策として「子どもの体力向上」「メディアコントロール」について継続して取り組んでいく。

協議 3 今年度の取組について

事務局より提案し承認された。

- 「家庭教育応援プロジェクト（県中版）」及び「県中ブロック会議からの提案」を改訂し、各連合PTA研究大会の際に配付する。
- 継続実践となる「子どもの体力向上」「メディアコントロール」について「親子の学び応援講座」での実践に可能な限り推進委員も参加し、成果を啓発していく。
- フォローアップ研修や家庭教育支援者全県研修等に可能な限り参加し研修を積む。
- 「家庭教育応援企業推進事業」について啓発をし、登録を呼びかける。
- 本会議の取組について各推進委員の立場で実践、支援していく。

協議 4 その他

- 第2回ブロック会議について
 - 12月8日（金）開催
- 「親子の学び応援講座」「各種研修会」等の連絡方法について
 - 提出頂いた推進委員連絡手段による
- 情報交換会（中間報告会）
 - 10月6日（金）に開催予定